

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-50876

(43)公開日 平成 5年(1993) 3月 2日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

B 6 0 N 3/10

B 6 0 R 7/04

識別記号

庁内整理番号

A 8915-3K

C 7149-3D

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 6 頁)

(21)出願番号

特願平3-201892

(22)出願日

平成 3年(1991) 8月12日

(71)出願人 000003997

日産自動車株式会社

神奈川県横浜市神奈川区宝町 2 番地

(72)発明者 寺田 隆

神奈川県横浜市神奈川区宝町 2 番地日産自動車株式会社内

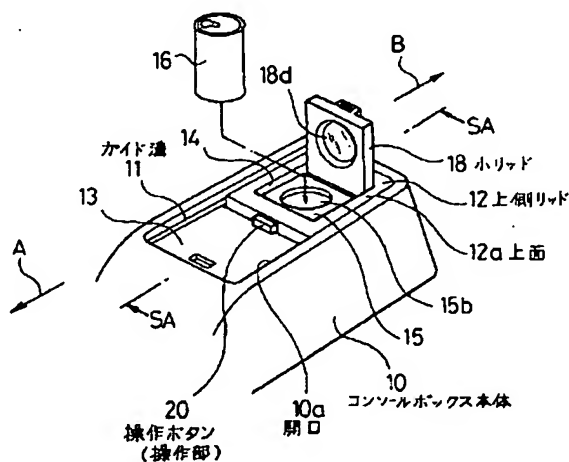
(74)代理人 弁理士 高月 猛

(54)【発明の名称】 コンソールボックス

(57)【要約】

【目的】 コンソールボックスのリッドに例えばカップホルダ等の別の機能をもたせることによりコンソールボックスの有効利用を図る。

【構成】 上側リッドの上面に該上面に対して略垂直に引起し回動自在の小リッドを設けたので、小リッドを引起して開けた状態でこの部分を例えばカップホルダ等の種々の目的に使用することができる。また、上側リッドの前端側及び後端側の左右両側面に摺動子を設けて、これによりガイド溝に沿ってスライド自在とし、且つ前端側又は後端側のいずれか一方の摺動子を操作部の操作により収納・突出自在として上側リッドを他方の摺動子を支点にして略垂直に引起し回動自在とした。このため、上側リッドを垂直に引き起こした状態では、先に開けた小リッドが略水平状態となるので、この部分を例えばカップホルダや小物置き等として使用することができる。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンソールボックス本体の開口に沿って前後方向にガイド溝を設けると共に該ガイド溝に沿ってスライド自在なリッドを少なくとも1枚設け、

前記リッドのうち最も上側の上側リッドの前端及び後端の左右両側面に、前記ガイド溝に沿ってスライドする摺動子を各々設け、

前記前端側及び後端側のうち、一方の摺動子を収納・突出自在とすると共に該摺動子を収納・突出せしめる操作部を設けて、前記上側リッドを他方の摺動子を支点として略垂直に引起し回動自在とし、

更に、前記上側リッドの上面に、前記他方の摺動子側の端部を支点として、該上側リッドに対して略垂直に引起し回動自在な小リッドを設けたことを特徴とするコンソールボックス。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明はコンソールボックスに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来のコンソールボックスとしては、例えば実開昭61-3147号公報に示されるものや、図10に示すようなものがある。1がコンソールボックスであり、シフトレバー2の後方（図中B方向）に配されて内部に小物を収納するようになっている。このコンソールボックス1はコンソールボックス本体3と、その開口3aに設けられている上下2枚のリッド4、5から成る。これら上下2枚のリッド4、5は、前後にスライド自在に設けられており、閉時には上側リッド4が開口3aの前側（図中A方向）半分を、また、下側リッド5が後側半分を覆うようになっている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような従来の技術にあっては、上下側リッド4、5はコンソールボックス本体3の内部に収納している小物を覆い隠すための蓋として設けられているのみである。

【0004】この発明は、このような従来の技術に着目してなされたものであり、コンソールボックスのリッドに例えばカップホルダ等の別の機能をも持たせることによりコンソールボックスの有効利用を図るものである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】この発明に係るコンソールボックスは、コンソールボックス本体の開口に沿って前後方向にガイド溝を設けると共に該ガイド溝に沿ってスライド自在なリッドを少なくとも1枚設け、前記リッドのうち最も上側の上側リッドの前端及び後端の左右両側面に、前記ガイド溝に沿ってスライドする摺動子を各々設け、前記前端側及び後端側のうち、一方の摺動子を収納・突出自在とすると共に該摺動子を収納・突出せしめる操作部を設けて、前記上側リッドを他方の摺動子を

2

支点として略垂直に引起し回動自在とし、更に、前記上側リッドの上面に、前記他方の摺動子側の端部を支点として、該上側リッドに対して略垂直に引起し回動自在な小リッドを設けたものである。

## 【0006】

【作用】この発明に係るコンソールボックスによれば、上側リッドの上面に該上面に対して略垂直に引起し回動自在の小リッドを設けたので、小リッドを引起して開けた状態でこの部分を例えばカップホルダ等の種々の目的に使用することができる。また、上側リッドの前端側及び後端側の左右両側面に摺動子を設けて、これによりガイド溝に沿ってスライド自在とし、且つ前端側又は後端側のいずれか一方の摺動子を操作部の操作により収納・突出自在として上側リッドを他方の摺動子を支点にして略垂直に引起し回動自在とした。このため、上側リッドを垂直に引き起こした状態では、先に開けた小リッドが略水平状態となるので、この部分を例えばカップホルダや小物置き等として使用することができる。

## 【0007】

【実施例】以下この発明の好適な一実施例を図1～図9に基づいて説明する。以後この項においては、『前』とは他方の摺動子からみて一方の摺動子の方向を指し図中A方向を、また、『後』とは一方の摺動子からみて他方の摺動子の方向を指し図中B方向を意味するものとする。10がコンソールボックス本体であり、開口10aに沿って前後方向に樹脂製のガイド溝11が設けられている。そして、この開口10aを開閉する上側リッド12と下側リッド13が、ガイド溝11に沿って前後方向にスライド自在に設けられている。

【0008】上側リッド12の上面12aには該上側リッド12に比して小さめの四角形状の小開口14が形成されており、この小開口14の内部には該小開口14の形状に対応して四角形状のカップホルダ15が設けられている。このカップホルダ15は、その前端部の左右両側で上向きに設けられている一対の支持棒15aにより、小開口14の前側部分に後開きで回動自在に支持されている。また、このカップホルダ15の中央部にはカップ16等保持用の丸孔15bが形成されており、左右両支持棒15aの間にはおもり17がカップホルダ15に一体に設けられている（図7参照）。そして、カップホルダ15を小開口14の内部に含んだ状態で該小開口14を覆う小リッド18が、その後端部に設けられている支持軸18aを小開口14の後部内側面に形成されている支持穴14aに嵌入させることにより上側リッド12に対して略垂直に引起し回動自在に設けられている。支持穴14aには小リッド18の回動範囲を規制する係止突起14bが設けられており、この係止突起14bが支持軸18aに形成されている二つの係止凹部18b、18cに係合することにより小リッド18を上側リッド12に対して平行状態及び垂直状態で保持するようにな

っている(図6参照)。また、小リッド18の裏面には円形の凹部18dが設けられている。

【0009】前記上側リッド12の前端及び後端の左右両側面12bにはガイド溝11に沿ってスライドする突起(摺動子)21、22が各々設けられており、これら4個の突起21、22が上側リッド12をスライド自在に支持している。この内、前側の突起(一方の摺動子)21は平板状をしていて、スプリングバネ19によって常時突出する方向(図中C方向)に付勢されており(図5参照)、上側リッド12の前端面に設けられている後述する操作ボタン(操作部)20の操作によって上側リッド12内部に収納可能となっている。また、後側の突起(他方の摺動子)22は係止部22aを備えた円柱状をしており、上側リッド12を開口10aの後端へスライドさせた状態では、ガイド溝11の後端に形成されている支持部11aに回動自在に軸支されることになる。これにより上側リッド12は後側の突起22を支点にして引起し回動自在となる。しかし、前記支持部11aにはバネ状の係止突起11bが形成されており、後側の突起22の係止部22aがこの係止突起11bを乗り越えた位置で係止されるので、上側リッド12は略垂直に開いた状態に保持されることになる(図4参照)。

【0010】一方、上側リッド12の前端面には前述した操作ボタン20が設けられており、この操作ボタン20の後面には後方に向かって伝達棒23が設けられている。この伝達棒23の後端には伝達ピン23aが設けられており、また、前側の突起21には支持ピン21aが設けられていて、これら伝達ピン23aと支持ピン21aの間を連結するリンク板24が左右一対設けられている。このリンク板24は中央部に設けられているピン24aにより回動自在に軸支されており、さらに両端には各々長孔24bが形成されていて、これら長孔24bに伝達ピン23a及び支持ピン21aが摺動自在に設けられている(図5参照)。従って、操作ボタン20を後方へ押すと、2枚のリンク板24の後端がD方向へ回動し、これに伴って前端がE方向へ回動するため、左右の前側の突起21は共に上側リッド12の内部に収納されることになる。

【0011】次に、コンソールボックスの使用状態を説明する。カップホルダとして使用しない場合は、小リッド18を閉じておく。この状態では、小リッド18は、上側リッド12の小開口14に設けられている支持穴14aに挿入されている支持軸18aの一方の係止凹部18bが支持穴14aの係止突起14bに係止されるので、閉状態に保持される。そして、上側リッド12は、側面に設けてある2対の突起21、22によりガイド溝11にスライド自在に支持されているので、これを開閉することにより通常のコンソールボックスとしての使用ができる(図3及び図6参照)。

【0012】前席の乗員がカップホルダとして使用する

場合

小リッド18を前部を引起して上側リッド12に対して直立させる。この状態では、小リッド18は小開口14の支持穴14aに挿入されている支持軸18aを支点として回動するが、この支持軸18aの係止凹部18cが支持穴14aの係止突起14bに係止される(図6参照)ので、直立した状態で保持される。この状態で、カップホルダ15の丸孔15bにカップ16等を入れ、コンソールボックス本体10の内部に別途設けられている受台25の上にカップ16等の底部を載せて使用する(図1及び図8参照)。

【0013】後席の乗員がカップホルダとして使用する場合

前述の前席の乗員が使用する状態のまま上側リッド12を開口10aの後端へスライドさせる。そして、操作ボタン20を後方に向かって押して上側リッド12の前側の突起21を該上側リッド12の内部に収納し、上側リッド12の前端を引起して直立させる。上側リッド12はその後側の突起22を支点として回動し、該後側の突起22の係止部22aがガイド溝11の支持部11aの係止突起11bを乗り越えた位置に係止されるので、直立した状態に保持される。従って、この状態では小リッド18は後ろ向きに略水平になっている(図2及び図9参照)。また、この時カップホルダ15はおもり17の作用により常に水平になろうとしているため、カップホルダ15は自ずから後向きに略水平に突出した状態となる。これにより、後席の乗員は、カップホルダ15の丸孔15b内にカップ16等を入れ、小リッド18の裏面に設けられている凹部18d内にカップ16等の底部を載せて使用する。

【0014】このようなコンソールボックスによれば、小リッド18を開けた状態では前席の乗員がカップホルダ15の使用ができ、さらにこの状態から上側リッド12を開けると後席の乗員がカップホルダ15の使用ができるので、必要に応じてどちらからも使用ができる。また、カップホルダ15は、一体に設けられているおもり17により常に水平を保とうとしているため、後席の乗員がカップホルダとして使用する際には乗員が手を加えなくても常に水平状態にセットされることになる。

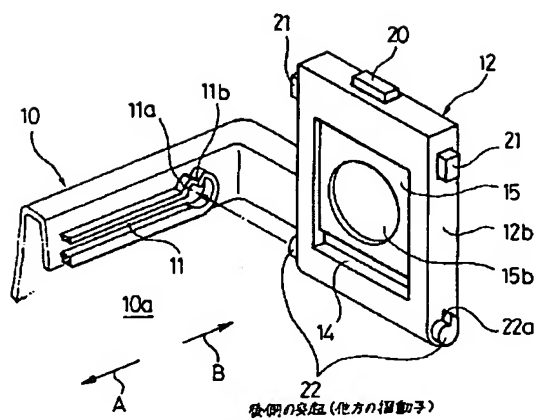
【0015】なお、上記実施例においては、小リッド18及び上側リッド12を前開きとした場合について説明したが、本発明はこれに限らず共に後開きとしても同様に適用できる。また、上記実施例においては、カップホルダとしての使用について述べたが、本発明はこれに限らず、例えば小物置き等種々の用途にも使用することができる。

【0016】

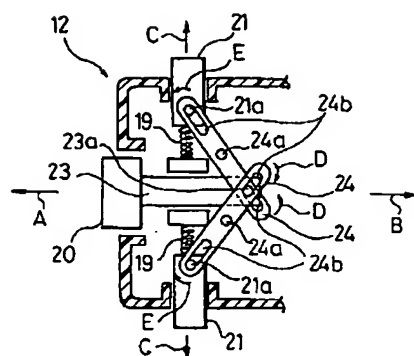
【発明の効果】この発明に係るコンソールボックスは、以上説明したように、この発明に係るコンソールボックスによれば、上側リッドの上面に該上面に対して略垂



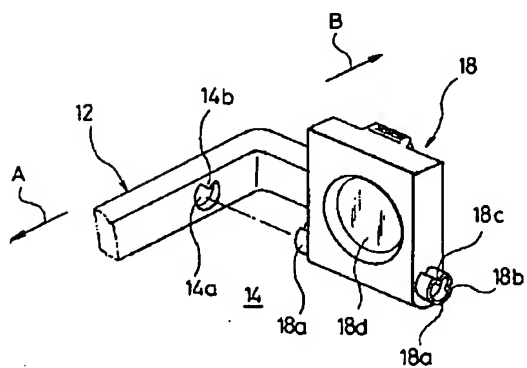
【図4】



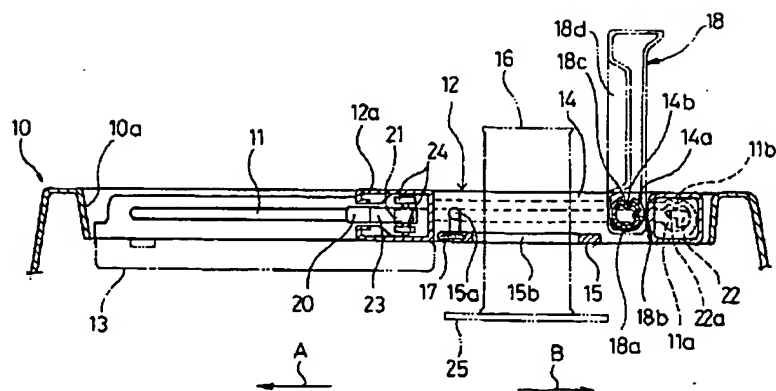
【図5】



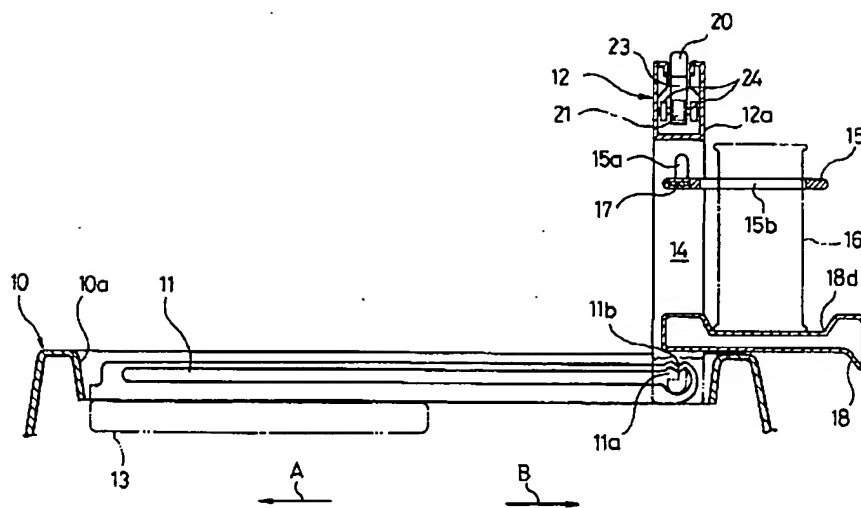
【図6】



【図8】



【図9】



【図10】

